

Jurassic Park

Michael Crichton 著／Ballantine Books, New York

研究者や技術者にはひらめきが必要である。ひらめきを生むためにはその材料になる知識が必要となる。従ってひらめきを生むためにはたくさんの知識を脳にしまっておくことが重要である。学生時代にこれをやっておくことが非常に大事なことは疑いの余地がない。しかしほとんどの人はやることが多すぎて時間がとれないのではないだろうか。最近は新しい資料の整理術などがあるから（たとえば野口悠紀雄『「超」整理法』）、やり方次第であなたの勉強や仕事は数倍速くなるかもしれない。しかしそれは数倍のレベルの話だ。もしあなたの勉強や仕事を10倍速くする方法があれば、あなたの持つ時間は著しく増える。そのような魔法の方法が実際にある。それは英文を速読する技術である。現代ではほとんどの新しい情報は英語で入るのだ。もし他の人が読むと2日かかる論文や資料を、あなたが2時間で読めるとすればどうだろう。また普通の人が時間がかかりすぎるために読むことすらできない書類を、あなたが短時間で理解できたらどうだろう。あなたはもう自分で自由にできる時間をいくらでも作り出すことができるようになっていくことに気づくだろう。

さて私が学生時代のことで大変後悔していることがある。それは英語の小説を読まなかったことだ。今になって考えると、このできなかったことが前述の魔法の方法だったのである。英語と日本語とでは単語の並びに大きな違いがあり、これが複雑な文章をさっと理解できない主な原因である。では英文の速読のためには何をすればいいのだろうか？ 答えは簡単で、面白い本をたくさん読めばいいのである。ここに本稿で紹介する*Jurassic Park*が登場する。

本書を始め*The Andromeda Strain*などいくつかの映画化された有名な小説を残して、Michael Crichtonは昨年（2008年）11月にその生涯を閉じた。クライトンはハーバード大学医学部の出で、彼の生物学の知識には驚嘆すべきものがある。家の本棚に、昔少し実験を教えたことのある研究者よりお礼に送られたペーパーバックの*Jurassic Park*がある。久しぶりに開いてみると“Toru, This book gives a unique & ironic view of molecular biology in our time…”で始まる彼女の書き込みとサインが目に入った。この小説が映画化された時、*Nature*誌のニュース欄に卵から孵化する恐竜の写真が“A dinosaur is born at the Jurassic Park”という見

出しと共に載っていたのを思い出した。*Nature*誌にフィクションの記事が載るのは実に珍しい。この映画が当時かなりのインパクトを持って迎えられたことを示すものであろう。iPS細胞の時代である現在から考えると、動物のクローニングは実はあまり簡単ではなかった。しかし生物に興味がある人が原作を読めばかなりのメリットがあるだろう。本書には生物についての正確な記述が至る所に見いだされる。暑い砂浜にどうして毒蛇が出ないのか、砂囊の働きは何か、恐竜は砂囊を持っていたのかなどの情報が豊富である。映画のおかげでストーリーはよく知られているが、話を知っている方が英語は理解しやすい。本は映画とは量が違う。本書を読み終えれば得られるものは非常に大きい。

本書を読む目的は2つある。第1に英語を読むことへの抵抗感をなくしてしまうこと、第2に英単語を知らないということへの意識をなくしてしまうことである。長い英文の意味をすばやく理解するにはコツがある。それは訳さないことである。そうすれば英語の語順のままで意味を理解することができるようになる。辞書は引かなくて良い。日本語の本を読むときは、知らない単語の意味は過去に学んだエピソードから類推するのが普通だ。茂木健一郎によれば、学校で勉強したはずなのに英語が苦手なのは、エピソード記憶が少ないままに、言葉の意味を、辞書を引くなどして少ない事例から理解しようとしているからだという（『ひらめき脳』p.125）。

本書はおもしろい。でも一度にたくさん読むと眠くなるかもしれない。長く読み続けるために大事なことが3つある。まず夜に読んではいけない。眠くなるだけである。もっとも、眠くなるのが読書の目的ならいいのだが、英語の勉強にはならない。読書を勉強としてとらえるなら早朝に読むのがよい。第2に日本語の本も入れて、読む本を5～10冊そろえる。本書より面白い本は入れてはいけない。これらを毎朝、数ページずつ読むのである。読み進めるコツの3つ目は「ごちゃごちゃ言わない」ことである。いろいろ理由をつけて遅らせたりやめたりしてはいけない。さっさと最後まで読めばいいのだ。5～10冊中のたったの1冊なのだから。

最後にもう一つ大事なことがある。今では多くの企業のエグゼクティブが取り

入れているGTD法という仕事の能率を上げる方法がある (David Allen, *Getting Things DONE: The Art of Stress-Free Productivity*)。この本に関する感想で一番多かったのは当たり前のことが書いてあるということであったという話を聞いたことがある。大事なことは実は当たり前のことが多い。しかしながらその実行方法を確認するのは簡単ではない。だからここに記した方法は誰にも伝えてはいけない。もし他の人にばれてしまえば、英文の速読という一見難しそうなことが、実は当たり前のように簡単にできることがわかってしまう。そうなるあなたはせっかくこの文章を読んで得た優位性を一瞬にして失ってしまうだろう。

執筆者紹介

三木 徹

生物系教授。専門領域は、分子細胞生物学。

『書名』 著者名(翻訳者名) 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格
『*Jurassic Park*』 Michael Crichton 著 Ballantine Books 1991年 842円

[ブックガイド目次へ](#)